

## 川上勉教授 略歴・研究業績

### 学 歴

- 1962年 3月 早稲田大学第一文学部仏文科卒業  
1962年 4月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程フランス文学専攻入学  
1965年 3月 同 上 修 了

### 職 歴

#### 1. 学内歴

- 1972年 4月 立命館大学助教授に就任（法学部）  
1974年 4月 立命館大学教授に昇任（法学部）

#### 2. 学内役職歴

- 1977年 4月 法学部学生主事（～1978年 3月）  
1982年 4月 学生部次長（現・副部長）（～1984年 3月）  
1993年 9月 外国語教育センター副所長（～1994年 3月）  
1994年 4月 外国語教育センター所長（～1996年 3月）

### 学 会

日本フランス語フランス文学会、世界文学会

### 著 書

- 1) 共著『ヨーロッパ現代文学を読む』、有斐閣、1985年
- 2) 単著『ヴェルコールへの旅』、昭和堂、1994年
- 3) 編著『現代文学理論を学ぶ人のために』、世界思想社、1994年
- 4) 共著『大学改革最前線』、藤原書店、1995年
- 5) 共著『ダダ・シュルレアリスムを学ぶ人のために』、世界思想社、

1998年

- 6) 単著『ヴィシー政府と「国民革命」』、藤原書店、2001年
- 7) 共著『ことば・文学・思想』、田中プリント、2001年
- 8) 共編著『ナショナル・アイデンティティ論の現在』、晃洋書房、2003年

## 論 文

- 1) 「『文体論』 アラゴンにおける生の転回 」1973年3月、『立命館  
法学別冊』
- 2) 「ダダ時代のアラゴン」1973年8月、『現代詩手帖』8月号
- 3) 「若きアラゴンにおける文学体験」1973年9月、『外国文学研究』第  
28号
- 4) 「批評の方法」1974年3月、『視点』第3号
- 5) 「三十年代のフランス文学」1975年6月、『野草』第17号
- 6) 「アラゴンにおける政治の季節」1979年3月、『外国文学研究』第45号
- 7) 「アラゴンの『夢の波』について」1980年12月、『現代詩読本』
- 8) 「アラゴンとシュルレアリズム」1981年12月、『外国文学研究』第52号
- 9) 「1930年代フランスの文学」1982年9月（永原誠編『1930年代の世界  
の文学』、有斐閣所収）
- 10) 「『アントワーヌ・プロワイエ』あるいは認識の手段としての文学」  
1982年9月（永原誠編『1930年代の世界の文学』、有斐閣所収）
- 11) 「フランス語のすすめ」1986年6月（奥村剋三編『外国語のすすめ』、  
大月書店所収）
- 12) 「レジスタンスと文学と」1987年4月、『りべるたす』第1号
- 13) 「ゴールドマンと社会学的小説論の発生」1988年3月、『外国文学研究』  
第79号
- 14) 「ゴールドマンと「悲劇的世界像」」1989年6月、『外国文学研究』第  
87号

- 15) 「ジュネットにおける「語り」」1989年6月、『外国文学研究』第87号
- 16) 「グリエールの戦い」1989年12月、『りべるたす』第3号
- 17) 「日本の近代化と文化の諸問題」1990年1月、『立命館言語文化研究』第1巻1号
- 18) 「アンリ・マシス論」1990年9月、『立命館言語文化研究』第2巻1号
- 19) 「現代フランスの文学理論」1991年1月、『世界文学』第72号
- 20) 「フランスの青年はいま・・・」1991年1月(講座『青年』第3巻、清風堂所収)
- 21) 「アンリ・マシス論(2)」1991年2月、『立命館言語文化研究』第2巻4号
- 22) 「福沢諭吉 近代的知識人の生成」1991年3月、『立命館言語文化研究』第2巻5・6号
- 23) 「ヴェルコール『海の沈黙』を読む」1991年12月、『りべるたす』第5号
- 24) 「アラゴンとフランスリアリズム」1992年3月、『ことばとそのひろがり』(立命館法学別冊)
- 25) 「バレスとマシス」1992年3月、『立命館言語文化研究』第3巻4号
- 26) 「ヴェルコールの死」1992年6月、『世界文学』第75号
- 27) 「福沢諭吉と外国体験」1992年10月、『立命館言語文化研究』第4巻1号
- 28) 「ヴィシー政権と「国民革命」」1993年6月、『立命館産業社会論集』第29巻1号
- 29) 「福沢諭吉とヨーロッパ探索」1994年3月、『立命館言語文化研究』第5巻4号
- 30) 「高見順戦中日記(1)」1994年12月、『りべるたす』第8号
- 31) 「近代的知識人の生成」1995年3月、(西川長夫、松宮秀治編『国民国家形成と文化変容』、新曜社所収)
- 32) 「高見順戦中日記(2)」1995年12月、『りべるたす』第9号

- 33) 「ドリヨと「国民革命」」1996年3月、『立命館大学政策科学』別冊
- 34) 「高見順戦中日記(3)」1996年12月、『りべるたす』第10号
- 35) 「ヴィシー体制下のフランス知識人」1997年6月、『立命館産業社会論集』第33巻第1号
- 36) 「アラゴンの『現代文学史草稿』について」1998年2月、『立命館経済学』第46巻第6号
- 37) 「20世紀文学のなかのアラゴン 生誕100年に寄せて」1998年7月、『世界文学』第87号
- 38) 「アンリ・マシス、ヴィシー政府のイデオログ」1999年2月、『立命館言語文化研究』第10巻5・6号
- 39) 「ヴィシー政府とナショナル・アイデンティティ」2000年2月、『立命館言語文化研究』第11巻4号
- 40) 「フランス文学の近況」2000年3月、『民主文学』4月号
- 41) 「「国民革命」論の系譜学」2000年11月、『立命館言語文化研究』第12巻3号
- 42) 「ヴィシーの記憶」2000年12月、『りべるたす』第14号
- 43) 「「国民革命」をいかに語るか」2001年2月、『立命館文学』第567号
- 44) 「アイデンティティへの道 サルトル『自由への道』を手がかりに」2001年3月、『立命館法学』第274号
- 45) 「「近代の超克」とナショナル・アイデンティティ」2001年12月、『りべるたす』第15号

## 翻 訳

- 1) 共訳 『世界プロレタリア文学運動』第5、6巻、三一書房、1974年
- 2) 単訳 アラゴン 『文体論』、講談社(世界文学全集78)、1975年
- 3) 単訳 アラゴン 『1943年の告解者』、新日本出版社(世界短篇名作選フランス編所収)1978

- 4) 共訳 『文学のシチュアション』、青山社、1980年
- 5) 共訳 ロジェ・ファイヨル 『フランス 文学と批評』、三修社、1986年
- 6) 共監訳 ミシェル・ヴィノック 『ナショナリズム・反ユダヤ主義・ファシズム』、藤原書店、1995年
- 7) 共訳 ジラルデ 『現代世界とさまざまなナショナリズム』、晃洋書房、2004年

## その他

- 1) 論文「外国語教育におけるFD」1997年6月、『立命館教育科学研究』第10号
- 2) パンフレット『「消極外国語」から「積極外国語」へ』FDプロジェクト、1998年3月
- 3) 論文「外国語教育のFD活動序説」1999年3月、『立命館教育科学研究』プロジェクト特集
- 4) 辞典「亡命文学」、「レ・タン・モデルヌ」、「レジスタンス文学」の項目担当（新版『日本大百科辞典』小学館）、2002年
- 5) ブックレット「占領下フランスのナショナル・アイデンティティ」（『現代世界とナショナル・アイデンティティ』、立命館大学人文科学研究所、2002年7月所収）
- 6) 論文「立命館大学外国語教育の歴史 80年代から90年代」2003年3月、『立命館百年史紀要』